



ひきこもりやニート、 発達障がいの方の支援を

議会改革ネットワーク ● 植中 みやこ 議員

問 さまざまな要因の結果、社会的参加ができず家庭内にとどまっている15歳〜39歳の方は、全国で約67万人、40歳以上の人も加えると更に多くなります。状態が長期になると親も高齢となり、今や社会問題です。制度のほざまで苦しんでいる人の支援を、支援ネットワークを統合し、発達支援システムの中に位置づける考えは。

答 支え合いのまちづくりを進め、実態調査への協力やSOSを発信しやすい近所づくり、支援者を支える体制など、関係者・機関の力を結集して前進させていきたい。縦割りの対応では限界があり、一人ひとりに向き合う相談・支援体制のあり方を検討していきます。

災害時の受援体制
答 過去に大規模災害を体験し、応急対策や

復興経験のある自治体や本市と地形・災害発生形態が似た自治体などを選定して相互協定を結び、応援職員を確保します。平成30年度末までに、被災を想定した受援計画を策定します。湖南市災害ボランティアセンターとの連携を強化します。

登下校時の安全対策
答 不審者対策にスクールガードの役割は大きく、さらに広く呼びかけます。保護者には普段から交通安全について、命を守る身近な話題として頂くよう働きかけます。



地域で支え合うまちづくり懇談会(菩提寺会場)



長寿化の先頭を歩む日本！ ・100年ライフ

湖南市公明党議員団 ● くわはらだ 美知子 議員

問 湖南市民の長寿化の進行状況について、100歳以上の推移は

答 合併当時は0人でしたが、平成28年度末からは16人を維持しています。今後の推移は90歳代の人口が平成16年度末の248人から平成29年度末には515人と倍増しており、その約3割は要介護認定を受けておられない状況にあることから、本市においても益々100歳以上人口が増加すると思われるです。

湖南市シルバー人材センターの今後の活用については

答 少子高齢化が進む中で、様々な経験を重ねてきておられるシニア世代は、社会を支える大きな力です。今後も湖南市シルバー人材センター等と連携を図り、就業案内等の広報や啓発を行っていきま

す。



問 これからの長寿社会では、年齢に沿って人生の「3つのステージ、教育・仕事・引退」から「マルチステージ」へと様変わりする

答 そこで、注目されるのが生涯教育の役割が必要です。

答 生涯にわたって学習する機会と場の充実が必要だと考えており、市では、地域づくり・人づくりにつながる「こなん市100歳大学」の取り組みを進めています。単に学ぶだけでなく、多くの人と交流することにも意味があります。